

数 学

氏名	
----	--

受験 番号	
----------	--

1 a は定数とし、関数 $f(x) = |x^2 - ax| + |a|$ を考える。関数 $f(x)$ の $0 \leq x \leq 1$ における最大値を M とする。以下の問に答えよ。

(1) $a \leq 0$ のとき、 M を a の式で表せ。

(2) $a > 0$ で $M = f\left(\frac{a}{2}\right)$ となるように、定数 a の値の範囲を定めよ。

[解答例]

(1) $a \leq 0$ のとき、 $x^2 - ax \geq 0$ ($0 \leq x \leq 1$) なので

$$f(x) = x^2 - ax - a = \left(x - \frac{a}{2}\right)^2 - \frac{a^2}{4} - a$$

したがって、軸は $x = \frac{a}{2} \leq 0$ なので $x = 1$ で最大値をとる。すなわち

$$M = f(1) = \underline{1 - 2a}$$

(2) (i) $0 < a \leq 1$ のとき、

$$f(x) = |x(x-a)| + a = \begin{cases} -x^2 + ax + a & (0 \leq x < a) \\ x - ax + a & (a \leq x \leq 1) \end{cases} = \begin{cases} -(x - \frac{a}{2})^2 + \frac{a^2}{4} + a & (0 \leq x < a) \\ (x - \frac{a}{2})^2 - \frac{a^2}{4} + a & (a \leq x \leq 1) \end{cases}$$

なので、

$$M = \max \left\{ f\left(\frac{a}{2}\right) = \frac{a^2}{4} + a, f(1) = 1 \right\}$$

となる。したがって、 $0 < a \leq 1$ かつ $\frac{a^2}{4} + a \geq 1$ のとき、 $M = f\left(\frac{a}{2}\right)$ となる。すなわち、

$$2\sqrt{2} - 2 \leq a \leq 1$$

(ii) $a > 1$ のとき、 $f(x) = -x^2 + ax + a = -(x - \frac{a}{2})^2 + \frac{a^2}{4} + a$ なので

$$M = \begin{cases} f\left(\frac{a}{2}\right) & (1 < a \leq 2) \\ f(1) & (2 < a) \end{cases}$$

(i), (ii) より a の範囲は

$$\underline{2\sqrt{2} - 2 \leq a \leq 2}$$

数 学

氏名	
----	--

受験 番号	
----------	--

2

方程式

$$2x^4 + Cx^3 + (A+3)x^2 + (B-A)x - B = 0$$

が4つの解 $1, \alpha, \beta, \gamma$ をもつとき, 以下の間に答えよ。ただし, 定数 A, B, C は実数とする。

- (1) C を求めよ。
- (2) $\alpha^2 + \beta^2 + \gamma^2$ を A を用いて表せ。
- (3) $\alpha = 1 + 2i$ であるとき, β と γ を求めよ。ただし, γ は実数とする。

[解答例]

- (1) 1 が方程式の解であるから

$$0 = 2 + C + (A+3) + (B-A) - B = 5 + C$$

よって $C = -5$

- (2)
- $f(x) = 2x^4 - 5x^3 + (A+3)x^2 + (B-A)x - B$
- とすると
- $f(1) = 0$
- なので, 因数定理より
- $f(x)$
- は
- $x-1$
- で割り切れる。実際

$$f(x) = (x-1)(2x^3 - 3x^2 + Ax + B)$$

となる。したがって α, β, γ は方程式

$$2x^3 - 3x^2 + Ax + B = 0$$

の解である。因数定理より

$$2x^3 - 3x^2 + Ax + B = 2(x-\alpha)(x-\beta)(x-\gamma)$$

と因数分解できる。右辺を展開して係数を比較すると

$$\alpha + \beta + \gamma = \frac{3}{2}, \quad \alpha\beta + \beta\gamma + \gamma\alpha = \frac{A}{2}, \quad \alpha\beta\gamma = -\frac{B}{2}$$

となることがわかる。したがって

$$\alpha^2 + \beta^2 + \gamma^2 = (\alpha + \beta + \gamma)^2 - 2(\alpha\beta + \beta\gamma + \gamma\alpha) = \frac{9}{4} - A$$

- (3)
- $f(1+2i) = 0$
- なので

$$2(1+2i)^3 - 3(1+2i)^2 + A(1+2i) + B = 0$$

整理して,

$$(A+B-13) + (2A-16)i = 0$$

したがって, $A=8, B=5$ となる。このとき,

$$f(x) = (x-1)(2x^3 - 3x^2 + 8x + 5) = (x-1)(2x+1)(x^2 - 2x + 5)$$

と因数分解できるので解は $x = 1, -\frac{1}{2}, 1 \pm 2i$ となる。

$$\underline{\beta = 1 - 2i, \quad \gamma = -\frac{1}{2}}$$

数 学

氏名

受験
番号

3

底面が平行四辺形 OABC である四角錐 D-OABC を考え、点 X を線分 BD を 2 : 1 に内分する点、点 P を線分 AD 上の点、点 Q を線分 CD 上の点とする。 $\vec{OA} = \vec{a}$, $\vec{OC} = \vec{c}$, $\vec{OD} = \vec{d}$ として、以下の問に答えよ。

- (1) \vec{OX} を $\vec{a}, \vec{c}, \vec{d}$ を用いて表せ。
- (2) $\triangle ACD$ を含む平面と直線 OX との交点を Y とする。 \vec{OY} を $\vec{a}, \vec{c}, \vec{d}$ を用いて表せ。
- (3) 4 点 O, X, P, Q が同一平面上にあるとき、 $\frac{AP}{AD} \leq \frac{2}{3}$ であることを示せ。

[解答例]

- (1) $\vec{OB} = \vec{a} + \vec{c}$ に注意すると

$$\begin{aligned}\vec{OX} &= \frac{1}{3}\vec{OB} + \frac{2}{3}\vec{OD} = \frac{1}{3}(\vec{a} + \vec{c}) + \frac{2}{3}\vec{d} \\ &= \frac{1}{3}\vec{a} + \frac{1}{3}\vec{c} + \frac{2}{3}\vec{d}\end{aligned}$$

- (2) 点 Y は線分 OX 上にあるので

$$\vec{OY} = t\vec{OX} = \frac{t}{3}\vec{a} + \frac{t}{3}\vec{c} + \frac{2t}{3}\vec{d} \quad (0 \leq t \leq 1)$$

と表される。また、点 Y は点 A, C, D を含む平面上にあるので $\frac{t}{3} + \frac{t}{3} + \frac{2t}{3} = 1$, すなわち $t = \frac{3}{4}$ である。したがって、

$$\vec{OY} = \frac{1}{4}\vec{a} + \frac{1}{4}\vec{c} + \frac{1}{2}\vec{d}$$

- (3) 4 点 O, X, P, Q が同一平面上にあるとき OPXQ は三角錐ではなく四角形となる。線分 PQ は $\triangle ACD$ に含まれるので対角線 OX と PQ の交点が Y となる。つまり、点 Q, Y, P は同一直線上にある。逆に点 Q, Y, P が同一直線上にあれば直線 OX と直線 PQ は点 Y で交わるので OXPQ は同一平面上にある。したがって、 $\triangle ACD$ において CY と直線 AD の交点を P' とすると $AP \leq AP'$ であることがわかる。

$$\begin{aligned}\vec{CY} &= \vec{OY} - \vec{OC} \\ &= \frac{1}{4}\vec{a} + \frac{1}{4}\vec{c} + \frac{1}{2}\vec{d} - \vec{c} \\ &= \frac{1}{4}\vec{a} - \frac{3}{4}\vec{c} + \frac{1}{2}\vec{d}\end{aligned}$$

なので、 $\vec{CP'} = k\vec{CY}$ と表されることに注意すると

$$\begin{aligned}\vec{OP'} &= \vec{OC} + \vec{CP'} = \vec{OC} + k\vec{CY} \\ &= \frac{k}{4}\vec{a} + \left(1 - \frac{3k}{4}\right)\vec{c} + \frac{k}{2}\vec{d}\end{aligned}$$

となるが P' は AD 上の点なので $1 - \frac{3k}{4} = 0$, すなわち $k = \frac{4}{3}$ となる。したがって、

$$\vec{OP'} = \frac{1}{3}\vec{a} + \frac{2}{3}\vec{d}$$

となるので点 P' は AD を 2 : 1 に内分する点である。以上より

$$\frac{AP}{AD} \leq \frac{AP'}{AD} = \frac{2}{3}$$

数 学

氏名	
----	--

受験 番号	
----------	--

4 $0 \leq \theta \leq \pi$ のとき, 2つの関数 $x = \cos \theta + \sin \theta$, $y = \cos \left(2\theta - \frac{\pi}{2}\right) - \cos \left(\theta - \frac{\pi}{4}\right)$ について, 以下の問に答えよ。

- (1) x のとりうる値の範囲を求めよ。
- (2) y を x の関数で表せ。
- (3) y の最大値と最小値を求めよ。

[解答例]

- (1) 三角関数の合成より

$$x = \cos \theta + \sin \theta = \sqrt{2} \sin \left(\theta + \frac{\pi}{4}\right)$$

と変形できる。 $\frac{\pi}{4} \leq \theta + \frac{\pi}{4} \leq \pi + \frac{\pi}{4}$ に注意すると, $-1 \leq x \leq \sqrt{2}$

- (2) (1) より $x = \sqrt{2} \sin \left(\theta + \frac{\pi}{4}\right) = \sqrt{2} \cos \left(\theta - \frac{\pi}{4}\right)$ なので

$$\begin{aligned} y &= \cos \left\{2 \left(\theta - \frac{\pi}{4}\right)\right\} - \cos \left(\theta - \frac{\pi}{4}\right) \\ &= \left\{2 \cos^2 \left(\theta - \frac{\pi}{4}\right) - 1\right\} - \cos \left(\theta - \frac{\pi}{4}\right) \\ &= x^2 - \frac{x}{\sqrt{2}} - 1 \end{aligned}$$

- (3) (1), (2) より

$$y = x^2 - \frac{x}{\sqrt{2}} - 1 = \left(x - \frac{1}{2\sqrt{2}}\right)^2 - \frac{9}{8} \quad \left(-1 \leq x \leq \sqrt{2}\right)$$

なので, 頂点は $\left(\frac{1}{2\sqrt{2}}, -\frac{9}{8}\right)$ であり, $x = -1$ のとき $y = \frac{1}{\sqrt{2}}$, $x = \sqrt{2}$ のとき $y = 0$, $-1 \leq \frac{1}{2\sqrt{2}} \leq \sqrt{2}$ であるから

$$\begin{aligned} x = -1 \quad \text{のとき最大値} \quad y &= \frac{1}{\sqrt{2}} \\ x = \frac{1}{2\sqrt{2}} \quad \text{のとき最小値} \quad y &= -\frac{9}{8} \end{aligned}$$

となる。

数 学

氏名

受験
番号

5 関数 $f(x) = e^{-x} \sin 2x$ について以下の間に答えよ。

- (1) $f(x)$ の導関数を求めよ。
 (2) $f(x)$ ($0 \leq x \leq \frac{\pi}{2}$) が $x = a$ で最大となるとき、 $\tan a$ を求めよ。
 (3) $I = \int_0^{\frac{\pi}{2}} f(x) dx$ とすると $I = 2 \int_0^{\frac{\pi}{2}} e^{-x} \cos 2x dx$ となることを示せ。
 (4) 定積分 $\int_0^{\frac{\pi}{2}} f(x) dx$ を求めよ。

[解答例]

(1) $f'(x) = -e^{-x} \sin 2x + 2e^{-x} \cos 2x$

(2) $f(0) = f(\frac{\pi}{2}) = 0$ であるから $a \neq 0, \frac{\pi}{2}$ となる。したがって、 $f(x)$ は $x = a$ で最大かつ極大となるから

$$f'(a) = e^{-a}(2 \cos 2a - \sin 2a) = 0$$

$e^{-x} \neq 0$ なので $2 \cos 2a = \sin 2a$ となる。よって、 $\tan 2a = \frac{\sin 2a}{\cos 2a} = 2$ となる。2倍角の公式から

$$\tan 2a = \frac{2 \tan a}{1 - \tan^2 a} = 2$$

これを解いて $\tan a = \frac{-1 + \sqrt{5}}{2}$

(3) $f'(x) = -f(x) + 2e^{-x} \cos 2x$ より $f(x) = 2e^{-x} \cos 2x - f'(x)$ であるから

$$I = \int_0^{\frac{\pi}{2}} (2e^{-x} \cos 2x - f'(x)) dx = 2 \int_0^{\frac{\pi}{2}} e^{-x} \cos 2x dx + [f(x)]_0^{\frac{\pi}{2}} = 2 \int_0^{\frac{\pi}{2}} e^{-x} \cos 2x dx$$

(4) 部分積分法 と (3) より

$$\begin{aligned} I &= -2 \int_0^{\frac{\pi}{2}} \{e^{-x}\}' \cos 2x dx \\ &= -2 \left\{ [e^{-x} \cos 2x]_0^{\frac{\pi}{2}} + 2 \int_0^{\frac{\pi}{2}} f(x) dx \right\} \\ &= 2(e^{-\frac{\pi}{2}} + 1) - 4I \end{aligned}$$

したがって、 $I = \frac{2(e^{-\frac{\pi}{2}} + 1)}{5}$